

神經症、異常見、犯罪と非行、亮淫、浮浪などの社会の病理的現象とよばれるものが、多かれ少なかれ、その範囲に数えられる。このような病理的現象について、これまで、それぞれの分野で、かなりの調査研究が行われている。それらの資料を蒐集したうえで、総合的に——というのは前記の諸科学の専門家たちの協同によって——整理することが、当面の大事な仕事の一つになる。同時に、最初から総合的に計画された調査研究を行なって、これまでの調査の不備、ことに上述した意味での総合性の缺如をおぎなうて、いわゆる日本の社会病理学を体系化する必要がある。このような調査研究には多大の予算と労力と時間とを費すことを覚悟しなければならぬが、精神衛生運動を放棄しない以上は、是非とも果さねばならぬことであろう。それは、精神衛生の日常の実務に役だつだけでなく、もっとひろい行政上の見地から、精神衛生対策を樹立するためにも、缺きえない基礎資料となるからである。

松本武子先生

アメリカ便利

社会福祉学科の皆様へ

大分町に馴れて来たと申し上げたい。けれど東京さへ一人で歩けなかった私ですから、ここでも同じ事です。只、何処かに行く時はカーで連れて行って頂くので苦勞もせず道も覚えません。以下略……クリスマス・ホリデーが一週間あるので、あちこちから来る様話されますが、一寸決心が付きません。何しろ、この休暇に幾つもありポートを書かなければなりませんから。本当に、よくこんなに学生に遠慮なしに勝手に出すと思う位に、それぞれの教授が課題や、テストやらを押しつけます。ここでは、95以上がA、85以上がB、75以上がC、DEとあります。Cが普通だそうです。採点は明確にしてくれれます。実習の指導も実によくしてくれれます。色々参考になります。この、ミス・ホータと云う人は、先代の（一年前に死亡）ミス・ブラウニン

グと心を合わせて、この社会科を作り上げた人ですから、とても科の仕事に熱心ですし、学生の爲にも、親身に考えてます。毎日忙しく、朝も九時に必ず来て居るし、帰るのも、大抵、科長が後です。この様に仕事に打ち込んでいる人です。そして教授も皆、この科長を尊敬して居ますし、学生も勿論科長を頼りにしています。こんな事で私は、この大学に来た事を心から喜んで居ます。色々教えられますから……。AAUWの支部の会にも時々招待されるので、これは義務だと思つて、出て居ます。カラーの写真でも取つて御見せしたら、貴方達がびっくりするでしょう。何しろ、七十の人が真赤なオーバーを着て居ても、変ではないのですから、しかし若い人は、案が心地味だと云う印象。フアアルデーは、さすがに落ち着いた服装で、私が聞いて居た様に絶えず着替えたりにして居ません。研究本位の生活です。皆様どうぞお元気でしっかりやって下さい。